

岩手県立大学盛岡短期大学部 令和7年度の主要な取組実績

1 全学的な取組

分野	計画の概要	実績の概要
教育分野	<p>教学 I R センターシステムを活用した各部局へのデータ提供の充実、より詳細な学修成果の把握とデータの提供に向けた教学 I R センターシステムと事務管理システムの連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教学 I R センターにおいて、アセスメントで活用する「授業に関する学生調査」、文部科学省の「全国学生調査」等を教学 I R センターシステムで実施し、データを提供した。 ・ 令和6年度にアセスメント等に必要データを迅速に提供できるよう構築した仕組みを活用し、学部等が必要とするデータや情報の提供を行った。 ・ 教学 I R センターシステムの「授業に関する学生調査」の機能と事務管理システムのシラバスの学修目標との連携を図り、これまでより詳細な学修成果の収集を可能とした。 ・ 質保証・向上システム及び教育改善を推進するため、教学 I R を活用した教学マネジメント体制の強化を図ることとし、教学 I R センターを改編して教学マネジメントセンターを設置することを決定した。
教育分野	<p>令和6年度に策定した「岩手県立大学における多様な性のあり方を尊重するためのガイドライン」に即した相談支援等の推進、本学における具体的な対応等についての検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岩手県立大学多様な性のあり方尊重委員会を開催し、取組状況について情報共有するとともに、全学的な支援体制の充実に向け、意見交換を実施した。 ・ 今後の取り組みの参考にするため、先進大学への訪問調査、全学生・全教職員を対象とするアンケート調査を実施した。 ・ S O G I に対する理解の促進と多様性の意識醸成を図るため、6月をプライド月間として設定し、ミニ講座を行ったほか、S O G I 研修会を開催した。
研究及び地域・国際貢献分野	<p>「岩手県立大学研究活動方針」に基づく、研究活動の環境や条件の整備に係る戦略策定と改善の推進</p>	<p>研究推進委員会において、協議・意見交換を重ね、各学部等からの意見を収集した上で、「研究環境の整備等に関する戦略」を策定した。</p>
研究及び地域・国際貢献分野	<p>企業学群構想の推進に向けた大学発スタートアップの創出とアントレプレナーシップの醸成、学生と企業との交流の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「みちのくアカデミア発スタートアップ共創プラットフォーム」のファンド事業である「みちのく G A P ファンド」に採択された課題について、起業支援アドバイザーによる伴走支援を行ったほか、来年度の採択に向けて新規案件5件の申請を行い、うち1件が採択された。
研究及び地域・国際貢献分野	<p>地域防災支援などに取り組む学生団体「F R O M」との協働による、防災・復興教育や防災訓練等の地域支援の推進</p>	<p>学生団体「F R O M」と協働し、小中学校等での防災・復興教育への支援や地域の防災訓練等への参加、地域からの依頼対応、各種情報発信などに積極的に取り組んだ。</p>

法人経営分野	電子決裁・文書管理システムの試行導入	電子決裁・文書管理システムを試行導入し、運用課題を整理の上、令和8年度から試行運用及び本格導入するための環境を整備した。
法人経営分野	広報戦略に基づく戦略的な情報発信を推進するための、令和5年度に策定したウェブアクセシビリティ方針に基づく公式ウェブサイトのリニューアルの実施	広報委員会やウェブサイトリニューアルワーキング等と連携し、プロジェクト計画やコンテンツ移行計画の確認、デザインやコンテンツ移行の検証を行った。
法人経営分野	ゼロ・カーボン化推進のための施設設備等の維持修繕及び更なる意識向上の取組の実施	<ul style="list-style-type: none"> ゼロ・カーボン化推進室及び学生団体等と連携し、キックオフイベント「ゼロ・カーボン祭」を開催し、学生団体による脱炭素化の取組紹介及びワークショップによる学生等の意識の向上を図った。また、更なる意識向上の取組を進めるため、他大学等の取組事例を学ぶイベントへ参加し情報交換を行った。 脱炭素化に資する施設設備の導入に向け、事業所訪問による事例研究等を行った。

[その他の取組]

計画の概要	実績の概要
<p>単位の実質化を図る取組みについて検討する。(※令和4年度受審認証評価における改善課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和8年度から実施することとしているCAP制度の導入に向け、教育課程を改定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度に受審した認証評価によって導入の必要性を指摘されたCAP制度について、令和8年度の導入に向け、各学科専攻で協議を重ねその結果を取りまとめ、導入の諸手続きを完了した。
<p>引き続き、志願者確保と入学定員の充足を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合型選抜の導入についての検討を継続するとともに、募集人員の選抜区分ごとの見直しを図る。 高大連携事業の積極的な実施および志願者動向の分析は、これまでと同様に継続して実施する。 	<p>[高大連携事業関係]</p> <p>入試相談会10件、高校教員説明会、サマーセミナー、ウィンターセッション、授業見学1件などの高大連携事業に参加し、志願者確保につなげる活動を実施した。(出張講義は1件の依頼があったが、担当教員の都合により不参加)</p> <p>[志願者動向分析関係]</p> <p>盛岡短大部独自の高校訪問は、7月から10月にかけて、計54校に対して実施した(県内36、県外18)。各高校に対し、志願状況及び総合型選抜に対する意向について聞き取りを行った。また、県外高校の推薦型選抜のニーズを確認するため、青森県と秋田県の高校に対し、生活科学科が推薦型選抜を導入した場合の利用の意向について聞き取りを行った。</p>

[総合型選抜導入に向けての検討]

総合型選抜導入に向けての検討のための情報収集を以下のとおり実施した。結果は別紙のとおり。

- ・ 短大部独自の高校訪問の機会を利用し、総合型選抜に対する各高校の意向について聞き取りを実施した。
- ・ 総合政策学部と社会福祉学部の担当者に対し、総合型選抜の実施状況等についてのヒアリングを行った。
- ・ 在学生に対するアンケート調査を実施した。

[令和9年度以降の入試制度変更]

生活デザイン専攻：令和9年度学校推薦型選抜より全国卒の追加と1校からの推薦人数を変更。令和9年度一般選抜より共通テストの配点を変更。令和10年度一般選抜より共通テストの科目数を変更。令和9年度社会人選抜より出願資格の変更。

食物栄養学専攻：令和9年度学校推薦型選抜より、出願資格及び1校からの推薦人数について変更。令和9年度入学者選抜より「学士・短期大学士・専門士選抜」を導入。令和9年度社会人選抜より出願資格の変更。

[その他の志願者確保に向けた取り組み]

- ・ 盛岡短大部ポスター・チラシの作成
- ・ 在学生コメント入りポスターの作成
- ・ 「ハガキプロジェクト」の実施
- ・ 進学情報サイトへの掲載依頼